

## ⑤ ミュージック・リベラルアーツ専攻

### 入学試験科目

#### 1. 英語

■一般選抜（A日程）は、以下より1つ選択する。

- (1) 大学入学共通テスト（筆記およびリスニング）
- (2) 本学が行う試験（60分）
- (3) 資格試験

詳細は「①一般選抜概要」を参照のこと。

■一般選抜（B日程）は、上記(1)の大学入学共通テストは利用しない。

※英語を母語とする者または英語が公用語となっている国・地域に居住する者で、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けた者は免除する。ただし、通常の課程による直近6年間の学校教育を英語で受けたことを証明する書類を提出すること。

#### 2. 面接

「英語」または「英語と日本語」で行う（試験当日、本人の希望を確認）音楽に関する基礎知識を問う質問を含む。

#### 3. 実技

声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器、作曲、指揮、古楽器、邦楽器から実技をひとつ選択してください。

演奏箇所は当日試験委員が指定する。試験委員からの合図があるまで演奏すること。

【ピアノでの受験者のみ】

「対面式」と「非対面式(実技の動画審査およびオンライン面接)」から選択することが可能です。

非対面式を選択する場合、パソコン・スマートフォン・タブレットいずれかの機器が必要です。

※パソコンの場合は、カメラ・マイク・スピーカーが内蔵または付属されている機種を使用してください。

※イヤホンまたはヘッドフォンを用意してください。

※曲目記入票記入の際は、総時間には曲間を含めず、各曲の演奏時間の合計時間を書くこと。

### 課題曲

#### ■声楽

以下の課題（A）（B）のいずれかを選択すること。

- (A) 自由曲2曲（演奏の途中で打ち切る場合がある。暗譜）
- (B) 声楽専攻声楽芸術の課題

#### ■ピアノ

以下の課題（A）（B）のいずれかを選択すること。

- (A) 器楽専攻ピアノの課題
- (B) 器楽専攻ピアノ演奏家コースの課題  
※ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ演奏家コース）の受験結果により、ミュージック・リベラルアーツ専攻（ピアノ）に合格となる場合がある。

#### ■弦楽器（受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる）

以下の課題（A）（B）のいずれかを選択すること。

- (A) 自由曲7-15分程度（複数曲可。暗譜。伴奏なし）
- (B) 器楽専攻弦楽器の課題

■管打楽器（受験可能な楽器は器楽専攻に準ずる）

以下の課題（A）（B）のいずれかを選択すること。

（A）自由曲 7-15 分程度（複数曲可。暗譜の必要なし。伴奏なし）

（B）器楽専攻管打楽器の課題

■作曲

（1）与えられた動機による楽曲の創作（5 時間）

（2）楽器演奏（自由曲 3 分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に演奏や作曲についての簡単な質問をすることがある。）

■創作

（1）作品提出 1 曲ないし 2 曲（組曲は 1 曲とみなす）

※編成、演奏時間は任意。

※楽譜は、鮮明な自筆あるいはコンピュータ浄書とする（コピー可）。

※表紙に曲名、氏名を記入し、簡易に製本すること。

※譜面各ページの右上に氏名を必ず記入し、ページ番号を表記すること。

※出願書類と共に提出すること。但し、出願書類に同封できない場合は別送可。

（2）楽器演奏（自由曲 3 分以上。自作曲不可。暗譜。演奏後に音楽についての簡単な質問をすることがある）

（3）提出作品に関する口述試問

■指揮

以下の課題（A）、（B）のいずれかを選択すること。

（A）下記の試験課題

（1）聴音（単旋律、二声）

（2）新曲視唱

（3）指揮実技

ハイドン：交響曲第 85 番変ロ長調 Hob. I :85 ランドン版（演奏は 2 台のピアノによる）

（4）演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）

（5）和声（バス課題「初級程度」30 分）

（6）小論文（英語または日本語 60 分）

（7）口述試問

（B）作曲指揮専攻指揮の課題

※ただし、指揮実技の演奏は 2 台ピアノで行う。

※小論文は、英語または日本語で解答可能

■古楽器〔リコーダー、リュート、チェンバロ、オルガン〕

自由曲 7-15 分程度（暗譜の必要なし。オルガンはペダルなしでもよい）

■邦楽器〔箏（生田流）、長唄三味線、琵琶（鶴田流）、古典尺八〕

自由曲 5 分以上（複数曲可。暗譜）